

## 部門長からのご挨拶

### 2022年度 電子・情報・システム部門長 玉置 久 (神戸大学)

このたび、電子・情報・システム部門（C部門）部門長を務めさせていただくことになりました。本部門との関係は、かれこれ30年前の論文委員会幹事に始まり、同副主査・主査、編修委員会委員、部門大会開催地区実行委員会委員長などを経験し、4年前から副部門長、部門長代理として部門運営に携わって参りました。

C部門は、電子材料、デバイス、回路、通信、医用・生体工学などの基盤技術から情報、システム、制御などの横断型技術までを対象に、幅広い研究領域を担っていることを特徴としています。情報化・デジタル化の波が日常生活まで浸透している現在において、IoT (Internet of Things) や CPS (Cyber-Physical System) などの情報関連技術のさらなる飛躍的發展を背景に、いわゆるシステム化の波が、学界・産業界のみならず社会にも広く浸透・充溢しつつあります。まさにシステムの時代であり、要素技術・基盤技術の探究と並んで、これらをシステム的な視点から結合・統合することによる課題解決・価値創造の追求が不可避となっています。このような状況において、本部門では社会的に注目されている新しいテーマに対しても基礎から応用まで取り組むとともに、新しい研究領域や応用分野の創出を目指して活動しています。システムの時代にプレゼンスの向上・拡大を通してイニシアチブが発揮できるよう本部門の舵取りを進めていくことが肝要であると考えています。

このような活動の基盤として、C部門では研究会、部門大会および論文誌を中心に、日頃の研究成果を発表し議論する場を提供し、優れた発表を積極的に顕彰しています。特に部門大会では、学生を対象としたセッションやセミナーの充実を図ってきました。研究者・技術者が集う場あるいは相互作用する場を提供し、オープンで形式に囚われない議論への参加を通して研究・技術開発へのフィードバックを得る機会を設けることが、特に若手の研究者・技術者のレベルやモラルの向上への著しい貢献が期待される場所かと思われまふ。このような活動こそが部門に強く期待されているところであり、部門が果たすべき主要かつ特徴的な役割として位置付けられるものではないでしょうか。この意味でも、部門大会や論文誌、研究会、各種セミナー等を通じた交流の機会を大切にしていくなべきであると考えています。本部門の文化を継承・熟成することに加えて、高度に発展していく情報関連技術の活用等による部門活動そのものの進化、部門活動の成果・知見の効果的な発信など、部門のサービスやプレゼンスの向上、さらには社会貢献の充実を果たしていきたいと思つています。このような「場」の提供が学会にとっての最も重要な役割であるとの基本に立ち返り、より魅力のある場にするための策を講じていく所存です。With/After コロナ時代に突入し、現実空間と仮想空間のハイブリッドによる場の提供形態についても、その有効活用の具体策が喫緊の課題であると考えています。

このような期待に応えるべく、また役割を果たすためにも、まずは個々の特徴ある活動に加えて有意義なコラボレーションによる部門活動のさらなる活性化を推進したいと思つています。甚だ綺麗ごとには過ぎる感は否めませんが、いい意味で部門活動・学会活動が楽しくなるような取り組みができればと考えています。皆様の積極的なご支援・ご協力をお願い申し上げます。

